

# 海事産業将来像について

---

# 海事産業将来像について

- 四方を海に囲まれた我が国において、造船・舶用工業等の海事産業は、経済的で信頼性の高い船舶を海運事業者に安定的に供給し、地域の経済・雇用を支えてきたところ。
- 今般、海事産業将来像検討会における議論を踏まえ、産業競争力の強化と社会課題の解決を車の両輪として推し進める取組により、海事産業が引き続き、我が国に欠かせない産業として、地域貢献を含む経済成長等に貢献し続けていく。

## 社会課題の解決に積極的に貢献

- 国際海運からのGHG排出を今世紀中にゼロとするため、ゼロエミッション船を実現
- 内航船へのイノベーションの活用により、内航海運の抱える人材不足等に対応



- AI、IoT等の技術潮流に対応し、ユーザーのニーズを踏まえた提案ができる問題解決力
- 新たな技術を取り込み、異業種との連携等、柔軟に自己変革するオープンな産業

## デジタル化等の技術潮流への柔軟な対応

## 世界で戦い、地域経済を支える

- 激化する国際市場で他国に打ち勝つ競争力を持つ強い海事産業国日本を維持
- 我が国の地域の雇用・経済を支え魅力のある産業として地元へ貢献



- 官公庁船の安定的・効率的な建造能力を維持し、我が国の安全保障・領海警備に貢献
- 商船分野との双方向での技術面・経営面での相乗効果により、海事産業を強化

## 我が国の経済と安全保障を支える

### 目指すべき 海事産業将来像

# (参考)政策指標の考え方について

- 2016年の交通政策審議会海事分科会海事イノベーション部会答申において、「2025年建造量シェア30%」が目標として設定された。
- 市場の低迷が長期にわたり持続する中、特に造船業では、生き残りをかけた企業連携や統合の動きが活発になっており、当面の間、業界の再編が続くものと考えられる。
- 海事産業将来像の実現に向けては、政策の方向性を踏まえた指標の設定も検討すべきではあるが、足下では業界の再編が続く厳しい状況にある中、再編等による競争力の強化が強く期待されているところであり、当面の間は、現行の目標を維持することが適当ではないか。

交通政策審議会海事分科会海事イノベーション部会答申における目標  
(新造船建造量シェア)

